



# Baika Library Times

## 図書館所蔵資料の電子化について

### 本学図書館における資料の電子化

本誌第2号でご紹介しましたように、本学図書館では2000年度末、「縮緬本」を中心とした61点の貴重本の電子化を行ないました。2001年度は「イギリスの絵本」（19世紀以前にイギリスで出版された絵本を中心に53点）の電子化を計画し、その第一段階であるカラーマイクロ化を行ないました。

アナログ資料（原物）の電子化には、デジタルカメラやスキャナーで資料を直接電子化する方法もありますが、当館では資料をまず高画質のカラーマイクロフィルムに撮影し、これをスキャニングしTIFF形式のファイルにデジタル化し、さらにJPEG形式に圧縮し300dpi相当の活用用CD-ROMを作成しました。このような方法をとる理由は、カラーマイクロフィルムは、8000dpiという高解像度で撮影されますので、将来、さらに高画質のデジタル技術が出てきた場合でも、再度原物を撮影することなく、このフィルムをもとに電子化することができるからです。マイクロフィルムは保存条件が良ければ、その寿命は100年とされています。一方、電子化された情報は、本質的には劣化がないとしても、電磁記憶メディア（CD-ROM、ハードディスク等）の寿命、システムやハード等の進歩や変更により利用できなくなるという状況が生じる可能性があります。



### 利用について

2000年度電子化された資料は、マルチメディア閲覧コーナーのサーバーにデータベースを作成していますので、同コーナーの端末から閲覧できます。カラー印刷も可能です。また、授業や公開講座等で利用される際は、必要な部分をCD-Rにコピーし、貸出も可能です。レファレンス・カウンターでご相談ください。活発な利用を期待します。

昨年5月児童文学科・石澤小枝子教授の講演会『長谷川弘文社の「ちりめん本」について』がCD-ROMになっています（請求記号：CDROM#301）。講演会の様子を業者がビデオ撮影し、その全内容を電子化したものです。また、電子化された「縮緬本」等講演会で提示された資料も収録されています。マルチメディア閲覧コーナーで視聴することができます。



### 今後について

貴重なアナログ資料は、後世に引き継ぐ知的文化遺産として適切な環境で保存し、利用者の皆さんには電子化された資料を利用・活用していただく、という考えに立ち、これからも貴重書の電子化を進めていく予定です。

電子化の対象となる資料の条件は、貴重書等で、「劣化がすすんでいるもの、劣化するおそれが高いもの」「利用希望頻度の高いもの」「本学だけが所蔵しているもの」であると考えます。どこに重点を置くか、本学としてどのような特色あるデジタル・コレクションを構築するか、また他機関とのリソースシェアリング（資料の共有）も考慮する必要があります。

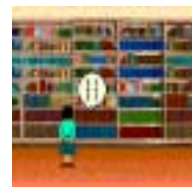
インターネットが普及した現在、図書館では資料の「保存」と「利用」に加えて、「公開」が求められるようになりました。電子化された資料は、「検索性」「ネットワーク性」に優れています。著作権の問題等が解決すれば、Web-OPACで目録を検索し、電子化された資料とリンクさせ、いつでも、誰でも、どこからでも画面上にページイメージを表示し、閲覧できればと考えます。（安威和世）



#### 目次:

図書館所蔵資料の電子化について	1
図書館の本の並び方 ～分類と配架～	2
図書館ガイダンス・スケジュール	5
2002年度前期図書館展示と講演会のお知らせ	6
「水嶋純子文庫」開設	6
大学図書館の動向	7
新収資料から	7

# 図書館の本の並び方～分類と配架～



## 図書館の本はどんな決まりで並んでいるの？

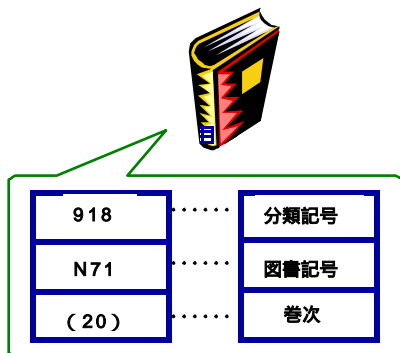
みなさんは図書館で本を探るとき、どのようにして探されていますか？

本学図書館では、現在約30万冊の本を所蔵しています。その図書館にあるたくさんの中から、たった1冊を探し出すのは大変です。

そこで、図書館では、必要な本を容易に探し出せるように、いろんな工夫をしています。同じような主題(内容)の本をまとめて置いているのもその一つです。本を主題で分けたり、集めたりすることを「分類」といいます。

本には一冊ずつ、ラベルが貼られているのをご存知だと思います。このラベルに書かれているものを「請求記号」と言います。この請求記号は、皆さんがOPACで検索した本を、実際に書架で探すときに手がかりとなる本の住所のようなもので、本の配架場所を示しています。図書館の本は、この請求記号順に書架に並んでいます。

請求記号は、“分類記号”“図書記号”“巻数(あれば)”によって構成されています。



- ・分類記号…本の内容がどういった分野のものであるかを、000～999までの数字(小数点以下の場合あり)で表しています。
- ・図書記号…アルファベットと数字で表されます。その本を書いた人や、(著者記号) タイトルの頭文字からつけられているので、同じテーマで同じ人が書いた本や、研究される人物の本が同じ書架に並ぶようになっています。
- ・巻数…「上・中・下」「第1巻・第2巻」など、何冊かに分かれている際の巻数や、シリーズ内での通番を表しています。

請求記号の役割や意味がわかると、もっと早く本を見つけることができるようになるでしょう。それでは、この請求記号の中の“分類記号”について詳しく説明します。

## 分類記号ってなに？

「分類」とは、「ある基準に従って、ものごとを似たものどうしに分け、まとめること」です。ものごとを種類によって分け、同類のものを集めるということは、私たちの日常生活でも自然におこなわれています。

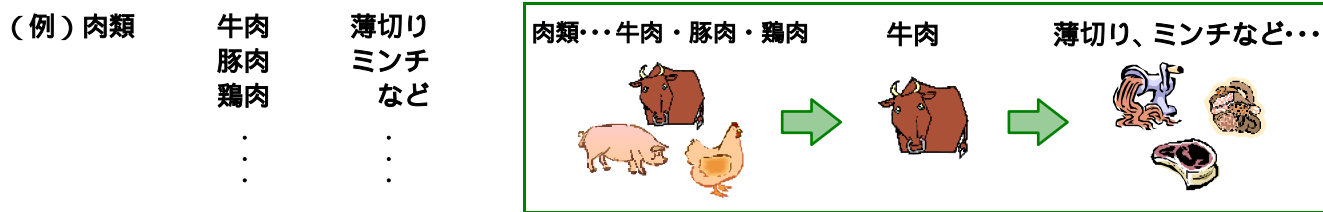
例えば、スーパーの食品売り場には、牛肉・えび・にんじん・チョコレート・バナナ・キュウリ・豚肉・アイスクリーム・ホタテ・鶏肉・みかん・なすび・キャンディ・ひらめ、いちごなど、たくさんの食材があります。これを、お客さんが商品を選びやすいように、肉類・魚貝類・野菜・果物・菓子など、同類のグループごとに分けるとすると、

<p>肉類…牛肉・豚肉・鶏肉</p>	<p>魚貝類…えび・ホタテ・ひらめ</p>	<p>野菜…にんじん・キュウリ なすび</p>
<p>果物…バナナ・みかん いちご</p>	<p>菓子…チョコレート・キャンディ アイスクリーム</p>	

となります。この、分ける、かつ、まとめるという作業が、分類です。

## 第4号

また、次のように、それぞれのグループの中でもっと細かく分類することも可能です。



さらに、この分類を出産地で分類することもできます。

(例) 肉類	牛肉 豚肉 鶏肉 ⋮	薄切り ミンチ など ⋮	日本産 オーストラリア産 など ⋮
--------	---------------------	-----------------------	----------------------------



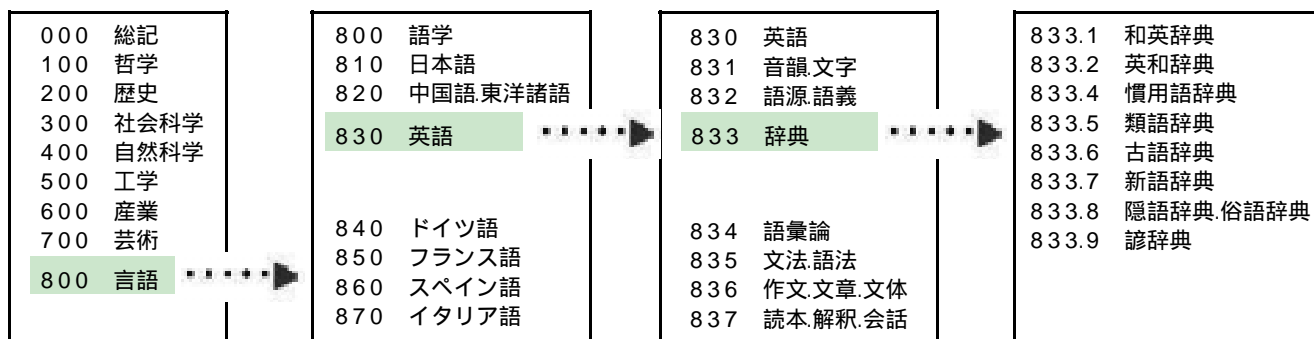
## 日本十進分類法 (NDC)

では、図書館の本は一体どのように分類されているのでしょうか。

日本の多くの図書館では『日本十進分類法 (NDC)』を採用しています。本学でも、この分類法を採用しています。( 1 )

日本十進分類法は、本にかかっている内容を10分野ずつに分類し、さらに各分野を10分野ずつに次々と分類していくもので、分類した結果を“0”～“9”までの10個の数字を使った記号で表現します。

### 『日本十進分類法 (NDC) 7版』の構成例



上記の表のように数字3桁で資料の主題 (内容) を分類し、さらに細かい内容を小数点以下で表しています。

分類記号は以上のような仕組みになっています。この分類記号の数字がわかれば、関係の本というように、おおまかな内容の本を探している時には、とりあえず直接書架に行って、本を手にとって探すことができます。

自分がよく利用する分野の分類記号を覚えていると、便利です。

しかし、ある決まった一冊の本を探しているときは、OPACでタイトルや著者で検索し、本の請求記号を控えて、書架に探しに行ってください。その際、請求記号は必ず最後の数字まで間違わずにメモをしてから書架を見てください。一つでも欠けたり間違ったりすると、違う本を示してしまいます。

### ( 1 )

本学図書館の図書は、「日本十進分類法」第7版の分類番号順に並んでいます。

但し、社会福祉等、新しい研究分野のものは、第9版に則っています。

また、児童文学関係の本 (「児童文学研究書」「伝承文学関係書」「絵本・漫画」) は、本学独自の分類をしています。

(「児童書」は、分類記号の頭に「児童書」をつけて、000～999で分類しています。)

## 図書館の本の並び方

次に、各書架での本の並び方について説明します。個々の図書館資料を請求記号順に書架に並べることを「配架」といいます。

図書館の本は、

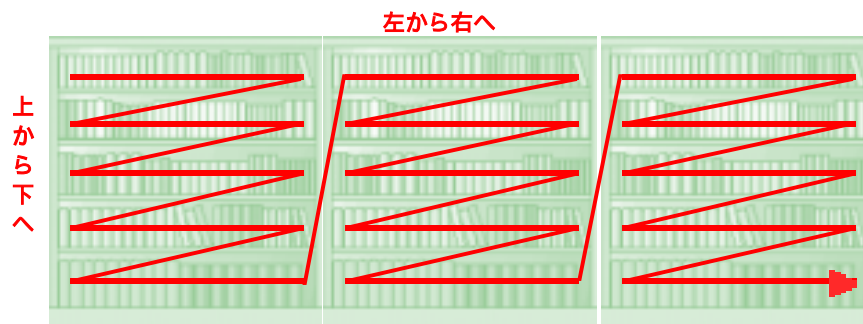
分類番号の数字順

図書記号のアルファベット順（同一アルファベットでは、その後ろの数字順）

巻号の数字順

に、書架の左から右へ、上から下に配架されています。

（例外もあります。 2 ）



本の並び方 1



本の並び方 2

資料が所定の位置でないところに置かれると、探している資料が見つからなくなってしまいます。館内で読み終わった本（漫画・辞書事典類以外のもの）は、直接書架に戻さないで返却台に置いてください。後刻、館員が配架します。

簡単に説明しましたが、分類記号と本の並び方はこのような仕組みになっています。

本を探していて、何かわからないことがありましたら、レファレンスカウンターまでお問い合わせください。

（岩 直子・田中真希子）

### （ 2 ）

- ・ 絵本・漫画は国内出版のものと外国出版のものに分けて、画家名のアルファベット順に配架しています。
- ・ 次の資料は別置しています。OPACをひいたときは必ず所在を確認しましょう。
  - 大型本、辞書・事典、地図、目録など。
- ・ 分類記号によって直接書架で探すときは、通常書架だけでなく、大型本の書架も確認しましょう。
- ・ 新書本、文庫本、就職・資格関係の本、旅行のガイドブックには請求記号はついていません。



## 図書館ガイダンス・スケジュール

本学図書館には、約30万冊の図書、2700タイトルの雑誌・紀要、200タイトルの電子資料等があります。また、マルチメディア閲覧コーナーには、CD-ROM・DVD等の電子資料の閲覧やインターネットによる情報探索ができる端末（パソコン）が15台あります。これら図書館の資料・施設を快適に利用できるように、下記の日程で「図書館ガイダンス」を開催します。この機会に効率よく資料・情報を利用できるようになって下さい。

\* 詳細は、ポスター、チラシ、図書館ホームページでご確認ください。

\* 申し込みは、すべて3階メインカウンターにて受け付けいたします。

\* 「図書館ツアー」のみ申し込み不要です。

(カレンダーの色と各ガイダンスの色は対応しています)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

赤字は閉館日

### 図書館ガイダンス

#### 図書館ツアー

館員が、皆さんと一緒に図書館内を一巡しながら、館内の施設の案内、利用方法について説明します。

- ・実施期間：4月4日（木）、5日（金）  
5月14日（火）～16日（木）
- ・実施時間：所要時間30分 5回/1日  
9:00～、10:40～、12:10～、13:00～、14:40～
- \* 4月4日、5日は午後のみです。
- ・集合場所：3階メインカウンター前

### 図書館ガイダンス

#### 文献・情報の探し方 入門編

卒業論文やレポート作成は、まずそのテーマに関する文献を集めることから始まります。当説明会では、Bai-Lis（図書館利用案内システム）を使って、資料の配架場所の案内、NDC（日本十進分類法）等の説明をし、冊子体の書誌・目録類（二次資料）を使って、図書・雑誌論文・新聞記事等の文献・情報を探す方法を説明します。

また、本学図書館にない資料の入手方法についても説明します。

- ・実施期間：6月4日（火）～6日（木）
- ・実施時間：13:00～14:30
- ・実施場所：マルチメディア閲覧コーナー

### 図書館ガイダンス

#### Bai-Lines (OPAC)

#### 蔵書検索システムの使い方説明会

本学が所蔵する資料を探すためには、蔵書目録を検索する必要があります。本学の蔵書検索システムには「Bai-Lines（バイラインズ）」というニックネームが付いています。コンピューターをつかって、タイトルや著者名、調べたいテーマ等から検索することができます。

当説明会では、端末機の操作方法・検索の仕方等OPACの使い方の基本をマスターできます。求める資料を効率よく探せるようになるために、是非参加して下さい。

「検索の手引き」も配布します。

- ・実施期間：5月20日（月）～24日（金）
- ・実施時間：第1回 10:40～11:25  
第2回 12:10～12:55  
第3回 13:00～13:45
- ・実施場所：3階OPACコーナー

### 図書館ガイダンス

#### 文献・情報の探し方 電子資料編

「入門編」で紹介した電子資料の二次資料を中心に具体的な使い方の説明をします。

インターネットの使い方・検索の仕方についても説明します。

- ・実施期間：6月11日（火）～13日（木）
- ・実施時間：13:00～14:30
- ・実施場所：マルチメディア閲覧コーナー



# 2002年度前期 図書館展示と講演会のお知らせ

## 図書館 6階展示コーナー

### 世界の聖書展

展示期間：4月3日～4月26日

世界一大ベストセラーである「聖書」。様々な言語（約60種）で書かれた「聖書」の展示をいたします。本学のモットーである「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」（マタイによる福音書 7章12節）を様々な言語でご確認ください。

### 「浄瑠璃本」(仮題)

展示期間：5月中旬～6月末

**講演会** お話：荻田 清 日本文学科教授  
平成14年6月、開催予定

本年度も展示資料の解説講演会を計画しています。開催日時、場所の詳細は決定次第、図書館ホームページ、掲示板等でお知らせいたします。是非、ご参加ください。

お問い合わせ、講演会の申込みは：梅花女子大学・梅花短期大学 図書館メインカウンターまで



## 「水嶋純子文庫」開設

去る3月12日に図書館5階北英語英米文学のフロアに「水嶋純子文庫」が開設されました。

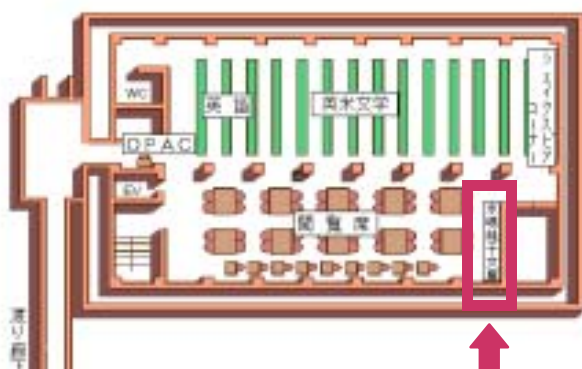
「水嶋純子文庫」は、本学英米文学科に在学中の平成9年に不慮の事故で亡くなられた水嶋純子さんの御遺族から御寄付いただいた書籍購入費500万を基金として設けられました。御遺族の御意向に添って、英米文学、英米文化、英語学、英語教育に関する書籍（和書780冊、洋書80冊）、及び視聴覚・電子資料（DVD106点、CD-ROM20点など）が収集されています。

通常の図書館資料と同様の貸出、利用ができますが、図書はの貸出は教職員も学生と同じ冊数と期間です。視聴覚・電子資料は館内での利用になります。

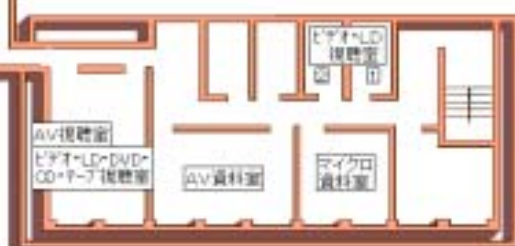
他学科の方ももちろん利用できます。どうぞご利用ください。（石元 泉）



5階北側 英語・英米文学



5階南側 視聴覚資料のフロア



## 大学図書館の動向

### 電子図書館

大学図書館の機械化は閲覧貸出業務、所蔵資料の書誌・所蔵情報のデータベース化およびその検索システム(OPAC)から始まり、現在ではOPACをインターネットで公開することも普通になってきた。

これらの機械化を先行して行ってきた図書館では、次に所蔵資料の全文情報の電子化に取り組み、ここ数年「電子図書館」などと銘打たれたサイトが急激に増えている。

電子図書館については「B.L.T.」の前身の「Bai-Lines News」でも何度か取り上げてきたが、今回はフリーに利用できる日本の全文情報の主要なサイト(「B.L.T. 2号(2001.4)」に掲載したオンライン・ジャーナルについてはのぞく)を紹介したい。

#### 大学図書館

東北大学 狩野文庫(錦絵、地図等)

(<http://www.library.tohoku.ac.jp>)

筑波大学 『住吉物語絵巻』等

(<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp>)

東京大学 霞亭文庫

(江戸期の小説類、演劇書1159点)等

(<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp>)

東京学芸大学 望月文庫の往来物、絵双六112枚

(児童文学科 加藤康子助教授が作成協力)等

(<http://library.u-gakugei.ac.jp>)

慶応HUMIプロジェクト ゲーテンベルク聖書、

日本の錦絵等

(<http://www.humi.keio.ac.jp>)

京都大学 国宝の『今昔物語』(翻刻データが添付)、重要文化財『古今和歌集』などの古典作品多数、樋口一葉の小説22作品等

(<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp>)

奈良女子大学 伊勢物語 16点、女性関連資料等

(<http://www.lib.nara-wu.ac.jp>)

広島大学 江戸時代からの教科書約5600点等

(<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp>)

九州大学 重要文化財『大和物語』、「奈良絵本」等

(<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/index-j.html>)

#### その他

国文学研究資料館 岩波書店の「日本古典文学大系」の全100巻等(利用登録要)

(<http://www.nijl.ac.jp>)

菊地真一研究室(甲南女子大学)仮名草子、講談等、また日本文学関係の電子テキストの主要なサイトが膨大なタイトルごとに掲載、リンクされている。

(<http://www.konan-wu.ac.jp/kikuchi>)

青空文庫 明治から昭和の小説など1700冊以上、日々増加

(<http://www.aozora.gr.jp>)

宮沢賢治童話館(個人サイト)全98編の童話等

(<http://www.cypress.ne.jp/why>)

(石元 泉)

## 新収資料から 『年譜年表総索引1991-2000』

日外アソシエーツ 編集 2001年7月発行(3F書誌・目録架:請求記号:203#N64)



ある人物や事柄について知りたいとき、まず年譜・年表を使って概略を調べておくと、後のより深い調査、研究の助けになります。しかし年譜・年表は、図書の巻末等に付随して掲載される場合が多く、そのみを目的に検索することは困難なものです。本書は単行書として刊行された年譜・年表だけでなく、そうした図書の一部として掲載された年譜・年表も含め主題から検索できるよう編纂された索引です。収録対象は、日本国内で1991年から2000年までの10年間に刊行された図書または図書の一部として掲載された年譜・年表28,660点です。人名、団体名、地域名などの固有名詞を優先し、一般件名を補記した見出しが五十音順に配列されています。ところで、同じ人物、事件についての年譜・年表でも作成者の目的によっておのずと取り上げられる事柄はちがってきます。例えば本書で『芥川龍之介』を引いてみると22点ありますが、図書によって2ページの年譜もあれば、14ページのものもあります。また同じ2ページでも中身が似通っているとはかぎりません。作成者の取捨選択によっては全くちがうことも考えられます。見比べてみるとそれぞれ違った芥川龍之介像がイメージできそうです。

1991年以前の年譜・年表を探される場合は、類書に「年表情報集覧」第1期、第2期 各全五巻(大空社1期1998刊、2期1999刊 3F書誌・目録架:請求記号:028#N64#1~5)があります。年表の書誌データを集め五十音順に配列した1巻と、ジャンル別に書誌データと年表そのものを複製掲載してある2~5巻からなります。あわせてご利用ください。(笠井牧子)





BLT

# Baika Library Times

(年2回刊 4月,10月)

BLT 第4号をお届けします。

石澤先生の講演会のCD-ROMは、1枚2,800円で販売されています。詳しくは、生涯学習センターにお問い合わせください。

日本でも「電子ペーパー」の開発が本格化してきたようです。「電子ペーパー」は、厚さ0.9ミリ、軽く、丸めて持ち運びが可能、落としても壊れないというもの。まさしく「紙のような電子ディスプレイ」。一度印刷やコピーをしてしまうと簡単に消せない紙とは違って、何度でも書き換えることが可能。電子出版用端末、読書端末としての実用化に期待が寄せられます。

国立国会図書館は、現在も「貴重書画像データベース」など電子図書館をインターネット上に展開しています。

([http://www.ndl.go.jp/r\\_tobira\\_1.html](http://www.ndl.go.jp/r_tobira_1.html))

国立国会図書館関西館(仮称)が、今年10月に開館(京都府相楽郡精華町)。これを機にホームページがインターネット上のサービス窓口として機能が強化され、「いつでも」「どこからでも」アクセスできる電子図書館として利用できるようになります。詳しくは、同館ホームページ

(<http://www.ndl.go.jp>)をご覧ください。

(編集責任：図書館広報担当者連絡会 / 安威・岩)

梅花女子大学・梅花短期大学 図書館

〒567-8578

大阪府茨木市宿久庄2-19-5

図書館

電話 0726-43-8498

Email [bLibrary@baika.ac.jp](mailto:bLibrary@baika.ac.jp)

資料室

電話 0726-43-8447

Email [shiryo@baika.ac.jp](mailto:shiryo@baika.ac.jp)

共通

Fax 0726-43-1952



図書館ホームページ

URL <http://www.baika.ac.jp/lib>